

『捨てること・得ること』

島根県 福知 寺徒弟 森山 清史

私が髪を剃ったのは、僧侶になる決心をした四十歳を過ぎた頃でした。三十歳になる前に頭頂部が薄くなり、内心気にしていたこともありすしかし、思い切ってカミソリで剃髪すると、これがなかなか良いものです。薄毛の悩みが無くなったばかりか、気持ちも明るくなり前向きになったように思います。

髪を剃った効果をあげてみましょう。まず、後ろの気配や風向きが、分かるようになります。皮膚は、敏感に温度を感じとるようです。また暑い時や汗をかいた時、雨に濡れた時など、手入れも簡単で便利、髪の乱れも気にならなくなります。そして年をとってくると、なぜか「若く見える」と言われるようになりました。寒くなると頭が冷えるので、帽子をかぶるのが面倒ですが、髪の毛を剃ることのご利益は、それを補って余りあります。

さて、髪の毛もそうですが、何かを失うことによって、何かを得ることは意外に多いのではないのでしょうか。私の世代から今の若い世代を見ると、物質的な豊かさを求めた時代が終わったことを感じます。多くのモノや人、仕事に囲まれた多忙な生活に疲れて、質素で自由な生活を求める方も少なくなっています。

コロナ禍となり世の中の往来が途絶え、こんなに不自由な時が来るとは、誰も予想しませんでした。とくに若い方たちにとっては、人生の大切な時期を失ったと感じることもあるのではないのでしょうか。しかし一方では、失った代わりに、得られたものも必ずあるはずですよ。私たちが、コロナ禍の混乱と閉塞の中から何かを感じとり、「禍(災い)」を、「福」に変えられる時が来ることを祈ります。